

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目	
藤本 英明	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 運動学 機能解剖学 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習	臨床評価学 I 臨床評価学 II 運動療法学 II 物理療法学 評価実習 臨床実習
神田 勝利	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 学びの技法 II 運動学 理学療法研究法 動作分析学 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習	臨床評価学 I 臨床評価学 II 運動療法学 I 運動療法学 II 中枢神経疾患理学療法学 評価実習 臨床実習
東海林 麻里子	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 運動学 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習 臨床評価学 I 臨床評価学 II	障害別評価学 症例演習 検査測定学演習 運動療法学 I 運動療法学 II 中枢神経疾患理学療法学 評価実習 臨床実習
高江 陽子	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習 臨床評価学 I 臨床評価学 II	運動療法学 II 日常生活活動学 生活環境学 高齢者理学療法学 評価実習 臨床実習
佐々木 聡	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	医療統計学 学びの技法 I 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習	臨床評価学 I 臨床評価学 II 義肢装具学 評価実習 臨床実習
白元 勇次郎	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習 臨床評価学 I 臨床評価学 II	理学療法評価学 検査測定学 難病・運動器疾患理学療法学 評価実習 臨床実習

理学療法学科(3年生) カリキュラム

専門課程(医療分野)

授業科目及び単位・授業時数								
分野・区分	科目	規定 単位	計画 単位(時間)	1学年	2学年	3学年	実務	
				単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)		
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	14	教育学	1(15)	1(15)			
			物理学	1(15)	1(15)			
			医療倫理学	1(15)	1(15)			
			医療統計学	2(30)	2(30)		○	
			医学英語	2(30)	2(30)			
			人間発達学	2(30)	2(30)			
			学びの技法	12(180)	4(60)	8(120)		○
小計		14	21(315)	13(195)	8(120)			
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	12	解剖学	4(60)	4(60)			
			運動学	4(60)	4(60)		○	
			機能解剖学	6(120)	6(120)		○	
			生理学	8(120)	8(120)			
		14	臨床心理学	2(30)	2(30)			
			病理学概論	2(30)	2(30)			
			内科学	4(60)	4(60)			
			神経内科学	4(60)	4(60)			
			精神医学	2(30)	2(30)		○	
			薬理学	2(30)	2(30)			
		保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	地域保健福祉学	2(30)	2(30)		
				医学概論	2(30)	2(30)		
小計		30	46(720)	42(660)	4(60)			
専門分野	基礎理学療法学	6	理学療法研究法	4(120)	4(120)		○	
			動作分析学	4(60)	4(60)		○	
			基礎理学療法学演習	5(150)		5(150)	○	
			専門理学療法学演習	5(150)		5(150)	○	
	理学療法管理学	2	2(30)	2(30)				
	理学療法評価学	6	臨床評価学Ⅰ	4(120)	4(120)		○	
			臨床評価学Ⅱ	2(60)	2(60)		○	
			理学療法評価学	2(30)	2(30)		○	
			検査測定学	4(60)	4(60)		○	
			障害別評価学	2(30)	2(30)		○	
			症例演習	1(30)	1(30)		○	
			検査測定学演習	1(30)	1(30)		○	
	理学療法治療学	20	運動療法学Ⅰ	4(60)	4(60)		○	
			運動療法学Ⅱ	2(60)	2(60)		○	
			物理療法学	3(60)	3(60)		○	
			義肢装具学	4(60)	4(60)		○	
			日常生活活動学	3(60)	3(60)		○	
			中枢神経疾患理学療法学	2(30)	2(30)		○	
			難病・運動器疾患理学療法学	2(30)	2(30)		○	
			内部障害理学療法学	2(30)	2(30)			
小児発達理学療法学			2(30)	2(30)				
地域理学療法学	3	生活環境学	2(30)	2(30)		○		
		高齢者理学療法学	2(30)	2(30)		○		
臨床実習	20	評価実習	3(135)	3(135)		○		
		臨床実習	18(810)		18(810)	○		
小計		57	85(2295)	8(120)	49(1065)	28(1110)		
合計		101	152(3330)	63(975)	61(1245)	28(1110)		

【授業概要】

卒業後の活動における理学療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。特に、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、国家資格を取得し専門職として活躍できるよう学修する。

【到達目標】

1. 基礎医学及び臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。
2. 基礎医学及び臨床医学の知識と技術を修得し、理学療法を実践的に展開できるようになる。
3. 調べ学習及びシエア学習での協同学習を通し、学生が主体的に学ぶ姿勢を確立する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	基礎医学・臨床医学総論	高江
2		
3	解剖学1:骨関節・筋	全教員
4		
5	解剖学2:神経	全教員
6		
7	解剖学3:脈管・内臓	全教員
8		
9	解剖学4:感覚器・体表・断層解剖・総論・組織	全教員
10		
11	生理学1:神経・筋	全教員
12		
13	生理学2:感覚・言語・運動・自律神経	全教員
14		
15	生理学3:呼吸・循環・血液・免疫	全教員
16		
17	生理学4:嚥下・消化吸収・排泄	全教員
18		
19	生理学5:内分泌・栄養・代謝・体温調節・生殖・総論・老化	全教員
20		
21	運動学1:四肢と体幹の運動	全教員
22		
23	運動学2:動作分析・姿勢・歩行・運動制御・学習・総論	全教員
24		
25	臨床医学1:骨関節障害	全教員
26		
27	臨床医学2:神経筋障害	全教員
28		
29	臨床医学3:精神医学①	全教員
30		
31	臨床医学4:精神医学②	全教員
32		
33	臨床医学5:内部障害・疼痛・がん・老年・他	全教員
34		
35	臨床医学6:疼痛・がん・老年・他	全教員
36		
37	病理学・薬理学	全教員
38		
39	臨床心理学	全教員
40		
41	リハ医学	全教員
42		
43	リハ概論、医学概論、人間発達学	全教員
44		
45	まとめ・振り返り学習	全教員
46		

【授業外学修】

予習:学習に臨む前に、該当する教科書・資料等に目を通し、準備しておくこと。(約1時間)

復習:学習内容を整理し、理解を深める振り返りや、過去問題を繰り返し解くこと。(約1時間)

【教科書名】

- 「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2018 専門基礎分野 基礎医学」(医歯薬出版)
- 「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2018 専門基礎分野 臨床医学」(医歯薬出版)

【参考図書】

1, 2年次に使用した教科書及び講義資料

【評価基準】

確認テスト 100%

【実務経験】

理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

卒業後の活動における理学療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。特に、理学療法専門分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、国家資格を取得し専門職として活躍できるよう学修する。

【到達目標】

1. 理学療法専門分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。
2. 理学療法専門分野の知識と技術を修得し、理学療法を実践的に展開できるようになる。
3. 調べ学習及びシェア学習での協同学習を通し、学生が主体的に学ぶ姿勢を確立する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	専門理学療法総論 実地問題学習の進め方	高江
2		
3	評価学1:ROM	全教員
4		
5	評価学2:MMT	全教員
6		
7	評価学3:中枢神経障害	全教員
8		
9	評価学4:整形外科	全教員
10		
11	評価学5:神経筋障害	全教員
12		
13	評価学6:脊髄損傷	全教員
14		
15	評価学7:内部障害	全教員
16		
17	評価学8:小児	全教員
18		
19	評価学9:基本評価、動作・姿勢分析、その他	全教員
20		
21	運動療法1:中枢神経障害	全教員
22		
23	運動療法2:整形外科	全教員
24		
25	運動療法3:神経筋障害	全教員
26		
27	運動療法4:内部障害	全教員
28		
29	運動療法5:脊髄損傷、小児	全教員
30		
31	運動療法6:面接、その他	全教員
32		
33	補装具療法1:装具学	全教員
34		
35	補装具療法2:義肢学、その他	全教員
36		
37	物理療法	全教員
38		
39	ADL、生活環境整備	全教員
40		
41	基礎理学療法学1	全教員
42		
43	基礎理学療法学2、地域リハ、リスク管理	全教員
44		
45	まとめ・振り返り学習	全教員
46		

【授業外学修】 予習:学習に臨む前に、該当する教科書・資料等に目を通し、準備しておくこと。(約1時間)

復習:学習内容を整理し、理解を深める振り返りや、過去問題を繰り返し解くこと。(約1時間)

【教科書名】 「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2023 専門分野 基礎PT学」(医歯薬出版)
「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2023 専門分野 PT治療学」(医歯薬出版)

【参考図書】 1,2年次に使用した教科書及び講義資料

【評価基準】 確認テスト100%

【実務経験】 理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

病院及び施設での実習開始前に学内実習において事前学習に取り組み、必要な準備を行う。

病院や施設にて臨床実習指導者の下、臨床実習を行う。

病院及び施設での実習終了後は学内で課題作成に取り組み、実習の振り返りを行う。また、実習での学びを学内実習において協同学習を行う。

【到達目標】

臨床実習教育者の指導・監督の下で、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定について学ぶ。診療参加型実習では、様々な疾患・状態の対象者を数多く経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果を学ぶ。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法業務についても理解を深める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
学内	I期実習前オリエンテーション 誓約書記載 実習前面談、自己目標設定、PCウイルスチェック 実習前学習及び実技演習 ①感染対策の調べと発表、実習 ②多職種連携の調べと発表、実習 ③救急蘇生法の調べと発表、実習 ④介護保険サービス、病院・病棟の機能の調べと発表 ⑤画像診断の調べと発表 実習前評価（ポートフォリオ、実習状況）	専任教員
実習地	総合臨床実習 I 病院及び施設での実習内容 ①理学療法評価の実施、評価結果および治療計画説明の実施、理学療法治療の実施 ②必要に応じ理学療法プロセスの検証を行い新たな方針の決定ができる。 ③適切な時期に再評価を行い、初期評価からの変化に焦点を当てた症例検討を行うことができる。	臨床実習指導者
学内	I期実習後オリエンテーション 実習後面談、振り返り 課題作成と提出 症例発表 実習後学習及び実技演習 症例演習①～⑥ 評価、治療を各チームで実施 実習後評価（症例デモンストレーション）	専任教員

【授業外学修】

予習：実習中は毎日、目標を立て、予定の確認をし、必要な知識の確認や準備を行うこと（約30分）

復習：実習中は毎日、振り返りを行い、必要な自己学習やまとめを行うこと。（約30分）

【教科書名】

【参考図書】

【評価基準】

実習成績40%、実習課題30%、症例報告30%

【実務経験】

理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

病院及び施設での実習開始前に学内実習において事前学習に取り組み、必要な準備を行う。

病院や施設にて臨床実習指導者の下、臨床実習を行う。

病院及び施設での実習終了後は学内で課題作成に取り組み、実習の振り返りを行う。また、実習での学びを学内実習において協同学習を行う。

【到達目標】

病院及び施設での実習開始前に学内実習において事前学習に取り組み、必要な準備を行う。

病院や施設にて臨床実習指導者の下、臨床実習を行う。

病院及び施設での実習終了後は学内で課題作成に取り組み、実習の振り返りを行う。また、実習での学びを学内実習において協同学習を行う。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
学内	Ⅱ期実習前オリエンテーション 誓約書記載 実習前面談、自己目標設定、PCウイルスチェック 実習前学習及び実技演習 2期実習に向けての学習 各自で計画、実施 実習前評価（ポートフォリオ、実習状況）	専任教員
実習地	総合臨床実習Ⅱ 病院及び施設での実習内容 ①理学療法評価の実施、評価結果および治療計画説明の実施、理学療法治療の実施 ②必要に応じ理学療法プロセスの検証を行い新たな方針の決定ができる。 ③適切な時期に再評価を行い、初期評価からの変化に焦点を当てた症例検討を行うことができる。	臨床実習指導者
学内	Ⅱ期実習後オリエンテーション 実習後面談、振り返り 課題作成と提出 症例発表 実習後学習及び実技演習 症例演習①～⑥チーム発表練習 症例演習①～⑥ 評価、治療を各チームで全体発表 実習後評価（症例デモンストレーション）	専任教員

【授業外学修】 予習：実習中は毎日、目標を立て、予定の確認をし、必要な知識の確認や準備を行うこと（約30分）

復習：実習中は毎日、振り返りを行い、必要な自己学習やまとめを行うこと。（約30分）

【教科書名】

【参考図書】

【評価基準】 実習成績40%、実習課題30%、症例報告30%

【実務経験】 理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加